

「新たな地域運営組織と その取り組みについて」

令和2年11月17日(火) 佐治町小さな拠点事業推進委員会
(特定非営利活動法人さじ未来)

会長(理事長) 小谷 繁喜

佐治地区の状況

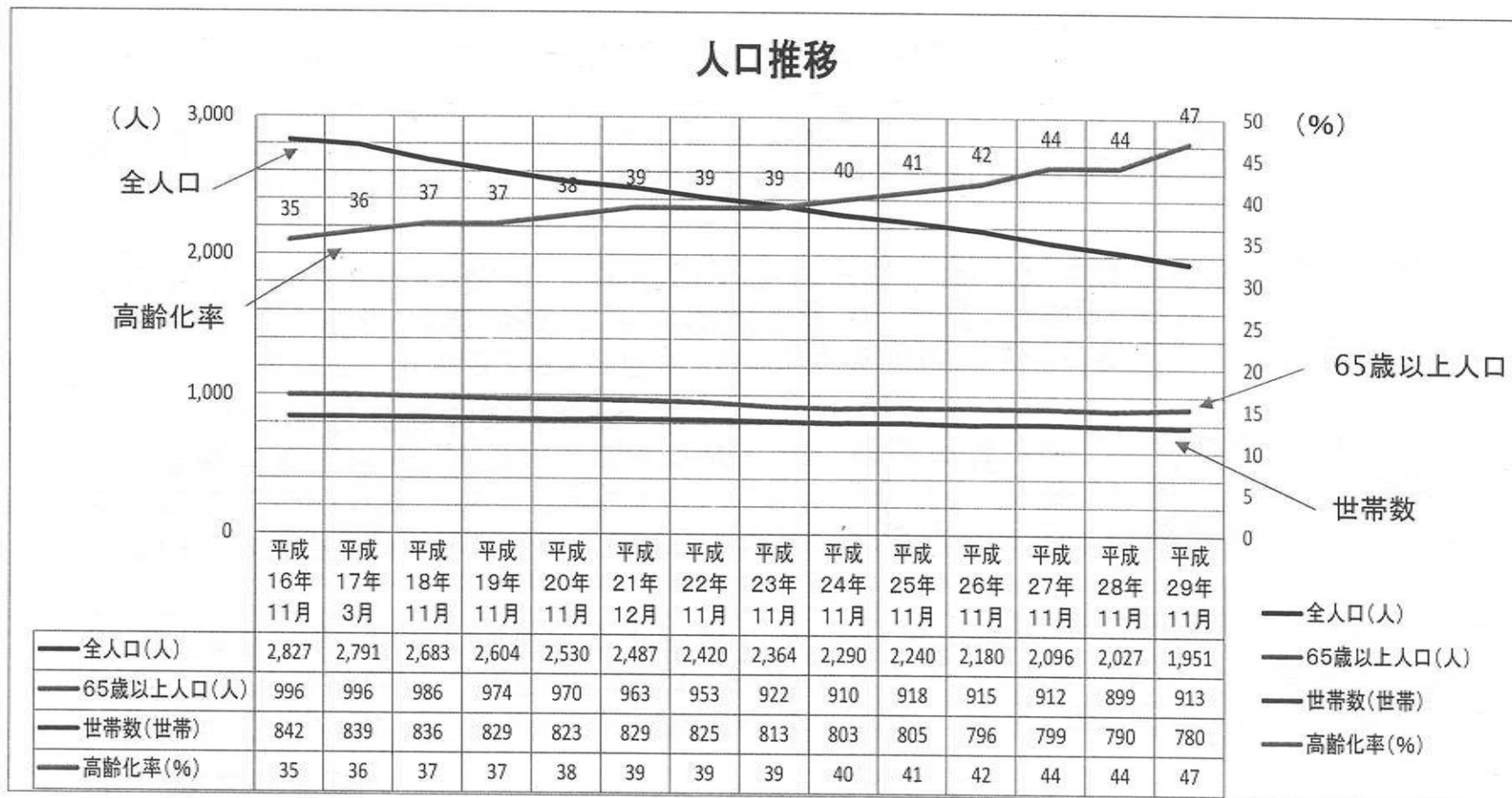
(1)人口(令和2年9月30日現在)

- ▶ 人口 1,763人 (男824人、女939人)
- ▶ 高齢化率 50.9%
- ▶ 世帯・集落数 756世帯・27集落

※合併新市域の中で突出して、人口減少と少子高齢化が進行している地域



佐治地区の状況



合併後13年間での人口推移

佐治町の小さな拠点事業の取り組み経過概要

▶ 1. 経過概要

- ▶ 佐治町の人口は、平成16年合併時の約2,800人から16年間で約1,000人、率にして35.7%減少し、現在では約1,800人となっています。また、65歳以上の高齢化率も50%を超え、過疎と少子高齢化が合併新市域の中でも突出している地域となっています。
- ▶ 過疎と少子高齢化が進行していくと、生活に必要なサービスや機能を維持していくことがだんだんと困難になってきますが、これからも暮らしを守り地域コミュニティを維持して持続可能な地域づくりを目指すためには、住民主体で新しい地域運営の仕組みづくりに取り組む必要があります。
- ▶ そのような中で、平成28年12月より町内各種団体代表25名により、「佐治町小さな拠点事業事前検討会」を立ち上げ協議を重ね、平成29年5～6月には中学生以上の住民1,896人を対象として住民の生活状況等に関する住民アンケートを実施しました。
- ▶ その後、平成29年11月に具体的な事業計画を検討する「佐治町小さな拠点事業推進委員会」に移行し、12月には町民を対象としてシンポジウムの開催、平成30年2月には各年代別等の座談会を開催するなどして意見やアイデア等を出していただき、3月末に地域助け合い事業の計画を取りまとめました。

佐治町の小さな拠点事業の取り組み経過概要

2. 時系列での流れ

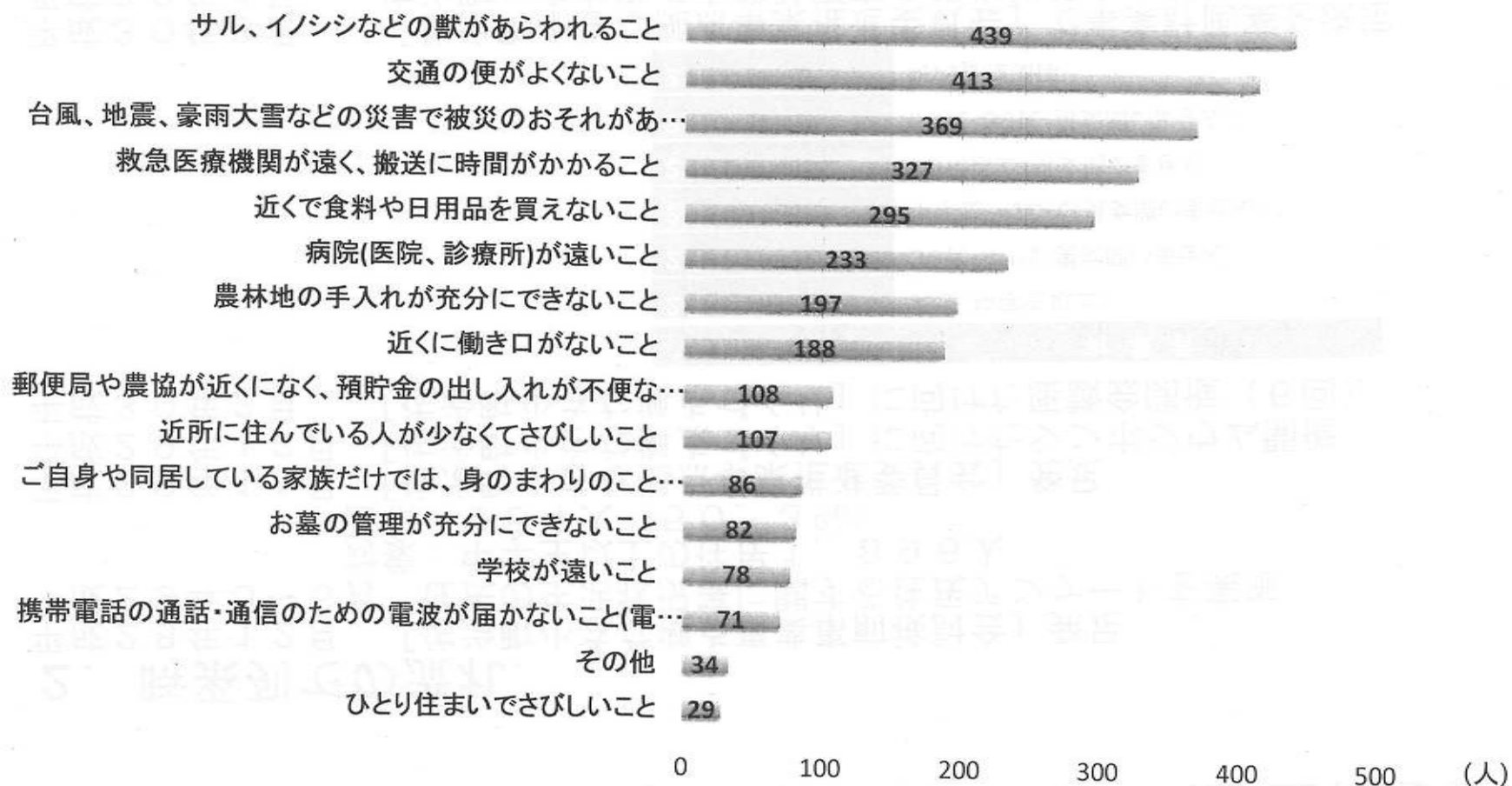
- 平成28年12月 「佐治町小さな拠点事業事前検討会」発足
 平成29年5～6月 住民の生活状況等に関する住民アンケートを実施
 対象：中学生以上の住民1,896人
 回収：954人（50.3%）
 平成29年11月 「佐治町小さな拠点事業推進委員会」発足
 平成29年12月 「佐治町小さな拠点づくり」に向けたシンポジウム開催
 平成30年2月 「佐治町小さな拠点づくり」に向けた座談会開催（6回）

開催日	対象者
2月3日(土)	女性(中学生以上)
2月3日(土)	30代・40代(男女問いません)
2月4日(日)	中学生～20代(男女問いません)
2月4日(日)	70代以上(男女問いません)
2月6日(火)	50代・60代(男女問いません)
2月7日(水)	町内各種団体

- 平成30年3月 「佐治町小さな拠点事業推進委員会」で事業計画案を決定
 平成30年4月 佐治町小さな拠点事業計画案の報告説明会を開催
 平成30年5月～ 随時、集落説明会の開催（全26集落中、15集落で開催）
 平成31年4月 佐治町小さな拠点事業による事業運営組織の法人化の決定
 （佐治町自治連合会総会で報告・承認）
 令和元年7月 特定非営利活動法人さじ未来設立総会開催

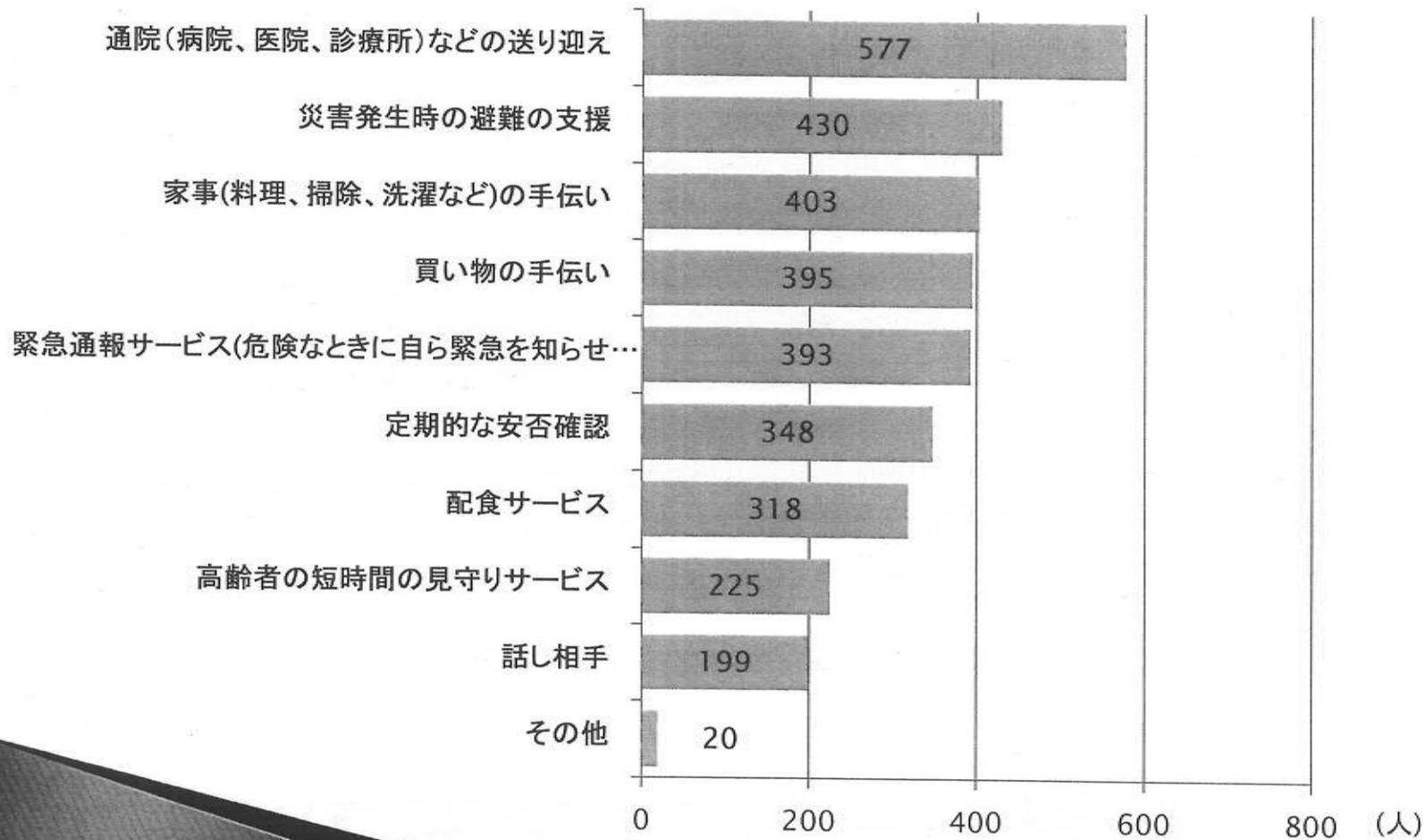
15歳以上住民アンケート結果

現在生活するうえで困ること、不安なことは



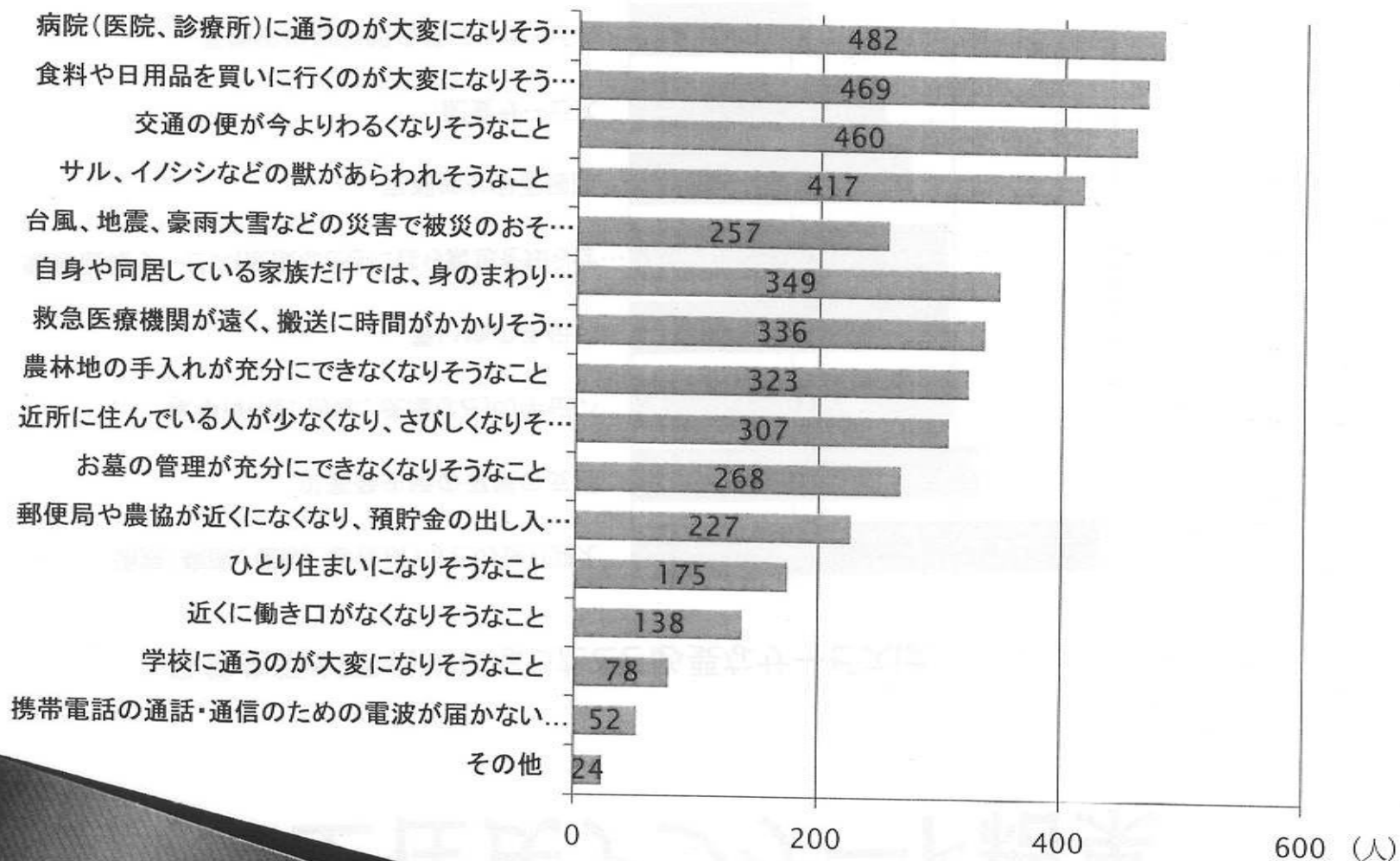
15歳以上住民アンケート結果

日常生活が不自由になったとき必要なサービスは



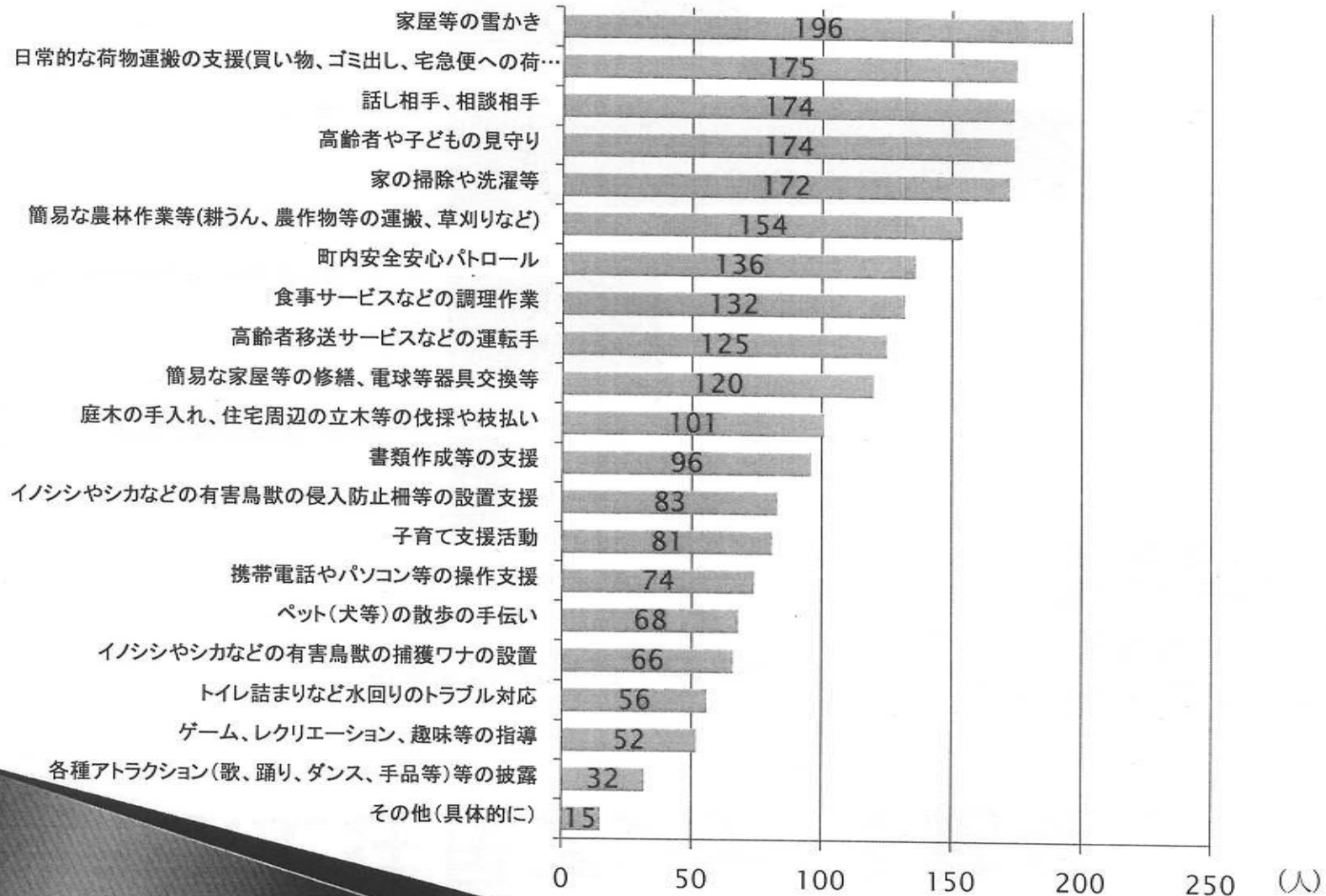
15歳以上住民アンケート結果

10年後の生活を考えると不安なことは



15歳以上住民アンケート結果

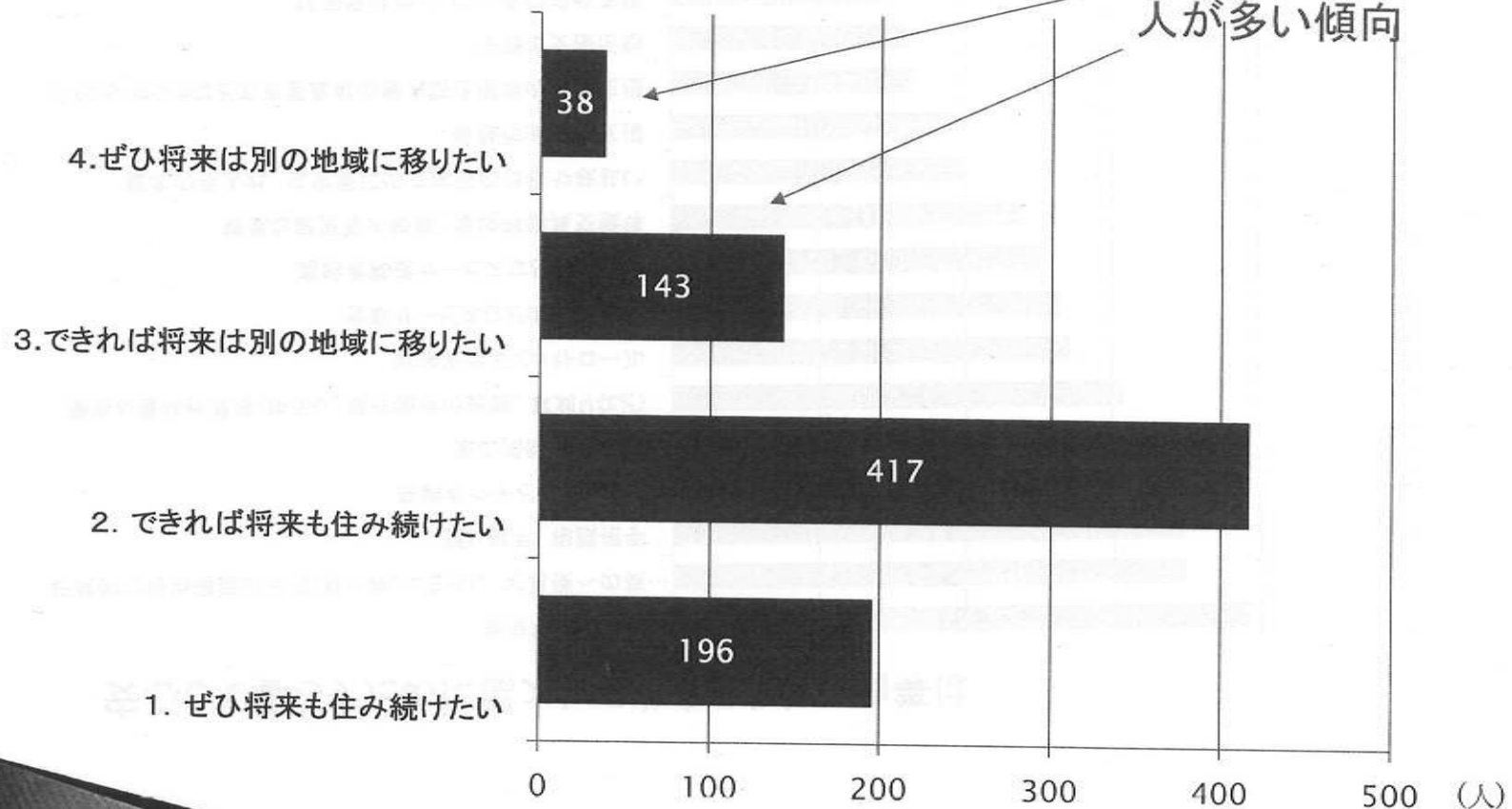
安心して暮らすために協力して出来そうな活動等は



15歳以上住民アンケート結果

将来も住み続けたいですか

※生活の利便性の悪さから、山王地域の方が佐治町から移りたいと考えている人が多い傾向

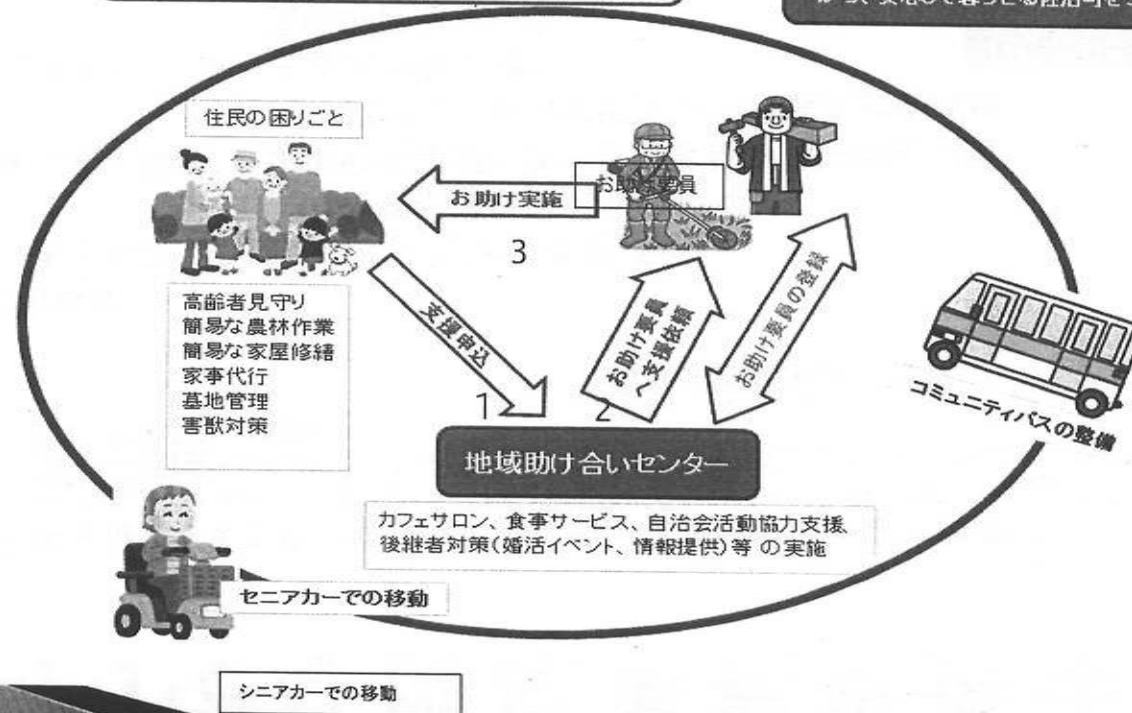


佐治町小さな拠点事業計画

●これまでの、どちらかと言うと「行政まかせ」や「行政頼り」から、できることは可能な限り住民主体で取り組むことへの転換。 ※H30年4月より計画を逐次実行中

佐治町小さな拠点事業の目指す姿

多くの佐治町民が、お互いに助け合いながら、安心して暮らせる佐治町をつくる



佐治町小さな拠点事業推進委員会

●小さな拠点事業を推進するため、県・市の小さな拠点事業担い手育成支援事業を活用して担い手(事務局員)を雇用し、佐治町内外イベント参加・県外視察等を通して、今後佐治町の地域づくりのヒントになる事例を研究したり、集落説明会・シンポジウム等を通して、町民に対して周知を図るとともに特定非営利活動法人さじ未来の運営支援を行う組織

※令和2年度末まで設置

・令和元年度実施事業

- ①担い手育成に係る事業……とっとりふるさと元気塾(5回)、
県内外視察研修(14回)
- ②町民への周知に係る事業…佐治町内集落への小さな拠点事業説明会(8回)、
シンポジウム・佐治町まちづくり推進大会の開催
- ③視察受け入れ事業……三重県伊賀市議会、
国府町自治会長会

・令和2年度実施事業

- ①担い手育成に係る事業……とっとりふるさとリーダーアカデミー(2回)
県内外視察研修(1回)

※ただし新型コロナウイルスの影響により、昨年度行った上記①～③の事業は県内感染状況を考慮して実施状態



特定非営利活動法人 さじ未来

●佐治町小さな拠点事業推進委員会で計画した、「地域助け合い事業」「佐治ふれあいサロン事業」など、事業を実施するための組織。NPO法人設立は令和元年8月

・現在までの事業実施状況

※令和2年11月1日現在

①地域助け合い事業(お助け要員事業)・・・令和元年10月より事業を開始し、延べ44件の依頼受託

②佐治ふれあいサロン事業……………令和元年12月より事業を開始し、ふるさと元気塾との共催含め、延べ5回のサロン実施

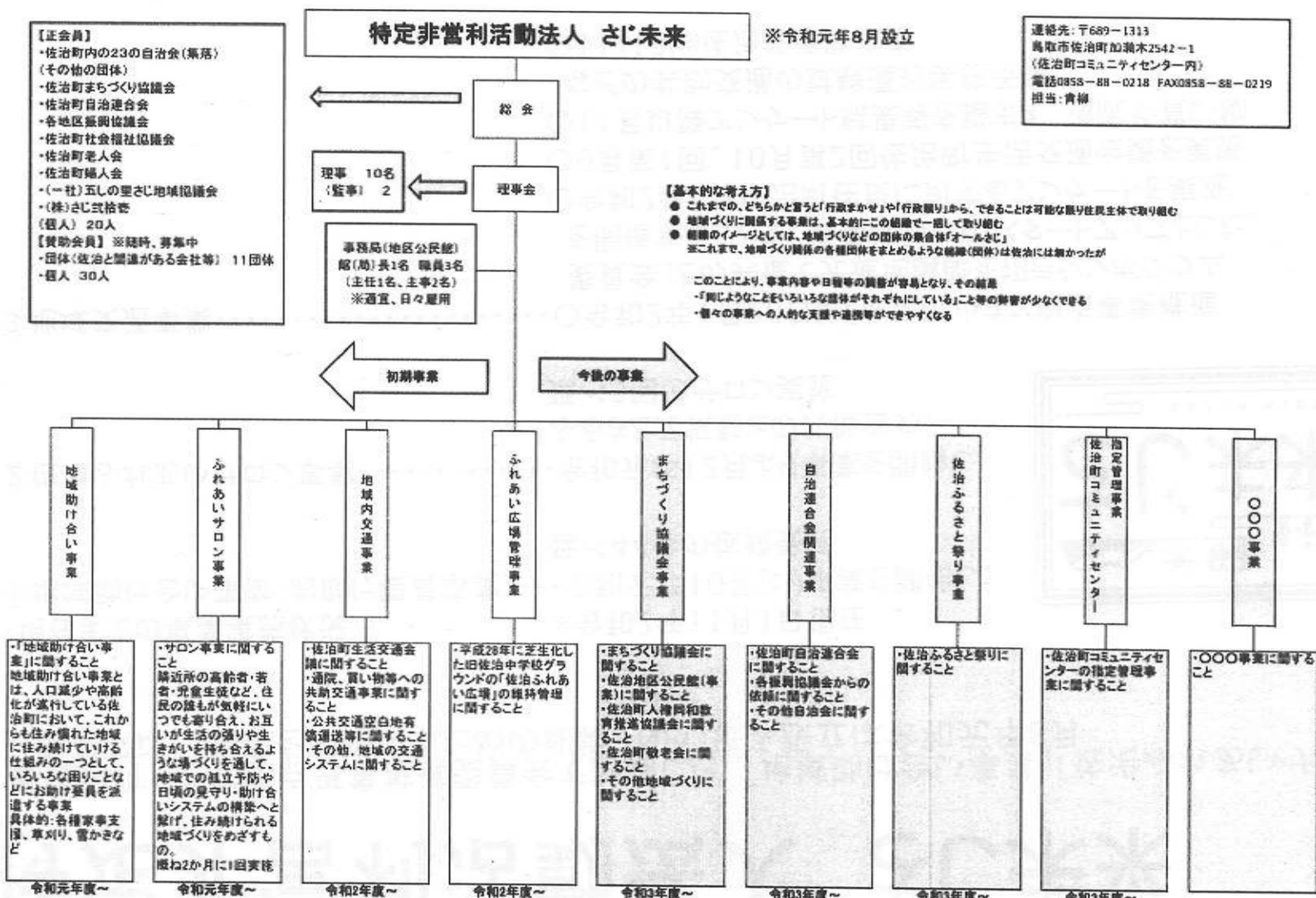
③地域交通事業……………○令和2年1月26日に「佐治町小さな拠点事業推進委員会」との共催で先進地講師を招きシンポジウムを開催することで、事業検討へのスタートアップとした。
○令和2年6月佐治町住民に対するアンケートを実施
○9月第1回、10月第2回佐治町生活交通会議を実施
○11月以降アンケート結果等を踏まえ、通院や買い物などの共助交通の試験運行実施予定
○11/13(金)佐治線乗降調査

④情報収集・情報発信事業……………小さな拠点事業推進委員会との共催で、毎月広報誌発行、ホームページによる情報提供
※別添資料参考(小さな拠点通信チラシ)



目指す組織と事業のリスト

参考資料⑤ 組織体制・実施事業概要(予定)



実施中の各種事業

地域助け合い事業



●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、いろいろな困りごとなどにお助け要員を派遣する、住民主体による事業

例えるなら、佐治町住民同士の人材派遣のような事業

●登録要員45名(男性:36名、女性9名)

内訳・・・口佐治:6名、中佐治:23名、第3区:11名、山王:5名

※令和2年11月1日現在

●事業メニュー等

※別添資料参考(助け合い事業チラシ)

●要員の保険について

怪我・物損事故に備えて、
「あいおいニッセイ」のNPO向け
総合保険に加入済み



実施中の各種事業

佐治ふれあいサロン事業

●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、地域での孤立予防や日頃の見守り・助け合いシステムの構築へとつなげ、住み続けられる地域づくりを目指す事業
例えるなら、人が集まれるカフェのような場所を提供する事業

●サロン運営委員会

構成員・・・佐治町に係る各種団体役員など(役職は会長1名、副会長1名)

●開催場所

佐治町コミュニティセンター、
佐治地区保健センター料理実習室
など佐治町内各施設

●開催時期

概ね2カ月に1回程度の開催予定
※別添資料参考(サロン事業チラシ)



実施中の各種事業

佐治ふれあい広場管理事業

●事業概要

特定非営利活動法人さじ未来が、佐治ふれあい広場(旧佐治中学校)等の維持管理を管理委員会から受託して行う事業

●ふれあい広場管理委員会

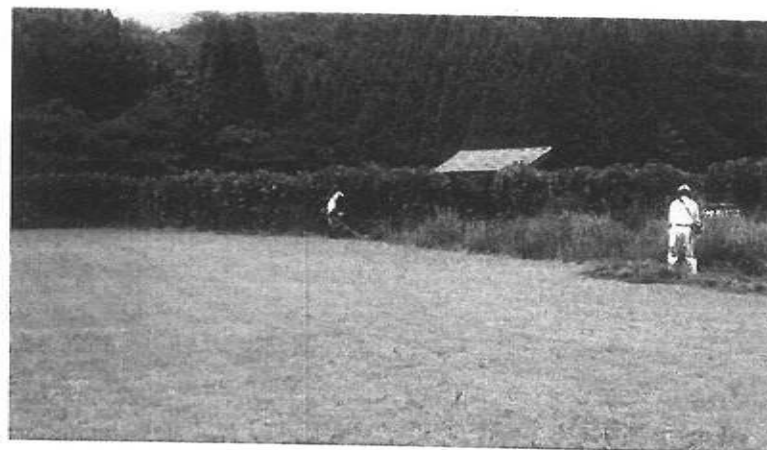
構成員・・・佐治町に係る団体各種団体役員など
(役職は会長1名、副会長1名、理事3名、監事2名)

●対象場所

佐治ふれあい広場、
高山多目的広場

●受託内容

事務一式、
施設内の芝刈り・草刈り等実施



実施予定の事業

地域内交通事業

●事業概要

佐治町を運行している路線バス、鳥取市有償バスの維持が難しくなっている昨今の状況を踏まえ、本年6月に実施した住民の皆さんの普段の移動実態や共助交通などに対するご意見などを把握するアンケート調査結果を基に、試験的に通院や買い物などへの共助交通事業に取り組み、更には利用者の意見や要望等を踏まえて本格運行に向けての参考にするもの。

※R2年度は2回試験運行を行うのみで、本格運行はR3年度予定

●佐治町生活交通会議

構成員・・・佐治町に係る団体各種団体役員など
(役職は会長1名、副会長1名)

●対象地域

佐治町一円

●試験運行の方法

路線を定めない予約型運行

※別添資料参考(試験運行チラシ)



佐治町小さな拠点事業の将来への展望

現状

「自分には関係ない他人事だ・誰かがしてくれる」



意識



住民一人一人の意識改革

考え方の変化

「自分にも何かできる事がないか」という、思いや意欲の醸成



地域助け合い事業等の各種事業に参加

理想のすがた

- ▶ 高齢者世代には、住み慣れた地域にこれからも住み続けていけることの安心を高め
- ▶ 現役世代には、地域と関わり感謝され頼りにされることで「生きがい」や「糧」(希望)につなげ
- ▶ 子供世代には、このような地域の仕組みや姿を通して佐治に未来(夢)を見いだし、佐治で暮らしていこうという思いを育む



ご清聴ありがとうございました。